



昼と夜の長さ
が同じ日



オシロシリーズ

鎮守乃 もり

私、全身黄金色のゴールデンレトリバーでございます。

でも、尻尾だけが白いので『オシロ』とご主人が命名してくださいました。

私は普通の犬とは違うらしく、幽体離脱ができるのです。

ご近所では気づいてもらえないことが当たり前なので、『いつも寝ている犬』で通っています。

ところが、ご主人様は私のことが見えるので、毎日楽しくご主人様の周りを浮遊しております。

さて、本日はどんなことになることやら…。

本日は人間界では祝日で、秋分の日だそうですね。

休日だそうです。

御主人様は普段、日曜日とか祝日とかと無縁な世界におられるようで、全く気にされてない様子。

「御主人様～。朝ですよ～？」

起きられない理由は知っています。

私がうとうとし始めたときも、御主人様はTVを食い入るように見てましたから。

録画したアニメを1話から。たしか、『ハイキュー！』って、ボールを追いかけて回すお話。

私もボールを追いかけて回すのは大好きなんですけど、地面に落としたらいけないのだとか。

不思議なことをするアニメだな～と思いながら寝ちゃいました。

夜中の1時を超えていたように思います。

うとうとしながら一度目を覚ましたときは、まだ見てましたよね。あれは4時頃？

それからまた寝ちゃいましたが。

「御主人様！もう9時ですよ！」

「うるさいなあ…もう少し寝かせてくれよ、オシロ…」

「はあ…。いいんですか？もうすぐしたら、ゴミ収集車がきちゃいますよ？」

いきなり起き出した御主人様を驚いた丸い目で見ていたら、冷蔵庫を全開にして、いろいろとま

とめて半透明の袋につっこみ、玄関のドアを開けて出ていった。

かと思ったら、すぐ戻ってきてカギを持って再び出て行きました。

玄関は開けっ放しでも問題なのだけれど、玄関ホールは自動で施錠されちゃうから、カギを持っていないと

いけないんだって。

共同ゴミ捨て場は外にあるから。

息を切らして戻ってきた御主人様。

「あ、戻ってきた」

「オシロ、朝食はカレーだ！ご飯炊いてから38時間経ってるから、一気に処分したいからな」

「朝からですか？さっきまで布団でだるそうにしてた方が食す朝食とは思えませんね」

「捨てるよりはましだ」

お湯を鍋で沸かし、ボンカレーを入れて3分。

お皿に山盛りの白米を乗せ、レトルトカレーをとろとろとかけた。

オシロはレトルトカレーの上を行ったり来たりしている。

食べ物から出ているエネルギー（気みたいなもの）を食べているのだ。

「もういいか？オシロ」

「ごちそうさまでした」

食べ物から出ているエネルギーを食べられた後は何か物足りない感じがする。

気のせいかもしれないけど、カスカス感が少しあるのだ。

そんなカレーを胃に流し込み、立ち上がった。

「台風も近づいている事だし、晴れている間に冬物を干してしまおう」

布団を干している間、オシロはTVの前で寝転がった。

本当なら、今日から帰郷してオシロの本体にさわったりかまったりしてやれるのだが、毎日の仕事の疲れがたまりにたまった状態なので、気力も体力もほぼ無い状態なのだ。

「オシロ。そろそろ帰いな。散歩の時間じゃないのか」

「あ。そうですね。それでは御主人様、しばらく失礼します」

ふっと、オシロは消えていなくなった。

「今頃はお袋が散歩に行ってる頃だな」

カギと財布の中身を確認した。

「うるさいやつがない間に買い物を済ませてしまおう。ついてきたら、あれこれ買え買えとうるさいからな」

買い物を済ませ、アパートに戻り、夕食の準備を済ませた。

そろそろうるさいアイツが戻ってくるころだ。

「夕食でも作り始めるか」

晩ご飯はご飯、味噌汁、キャベツ千切り、ポテトサラダ、きんぴらごぼう、プチトマト。

TVを見ながら食事を始めた。

「おもしろくないな...」お笑い番組を見ながら、ひとりごちた。

めずらしくオシロはその日は戻ってこなかった。